

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

「吳中四才子」の名の形成と流変

*The Formation and Evolution of The Title
“The Four Scholars of Wuzhong”*



唐寅『款鶴圖』
(局部)
上海博物館藏

『明史』から見ると、明代中期における唐寅、祝允明、文徵明、徐禎卿は共に「吳中四才子」と呼ばれていた。しかし、史料を考証することにより、『明史』の記載は真実ではないと判明した。実は、錢謙益が自分の文学の主張を宣伝するためにこの呼称を創造した。民話における「吳中四才子」は唐寅、祝允明、文徵明と周文賓である。徐禎卿の人生は一般人にあまり知られていないため、名前が含まれていない。また、周文賓のモデルは仇英や沈周ではない。彼はおそらく架空の人物である。

◆ 日時： 2017年10月26日(木) 17:00-18:00

◆ 報告者： 高虹飛氏(東京大学東洋文化研究所・訪問研究員)

◆ コメント： 大木康氏(東京大学東洋文化研究所・教授)

◆ 会場： 東京大学 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は中国語で行われます(通訳付き)。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネット
ワーク
Network for Education and Research on Asia

